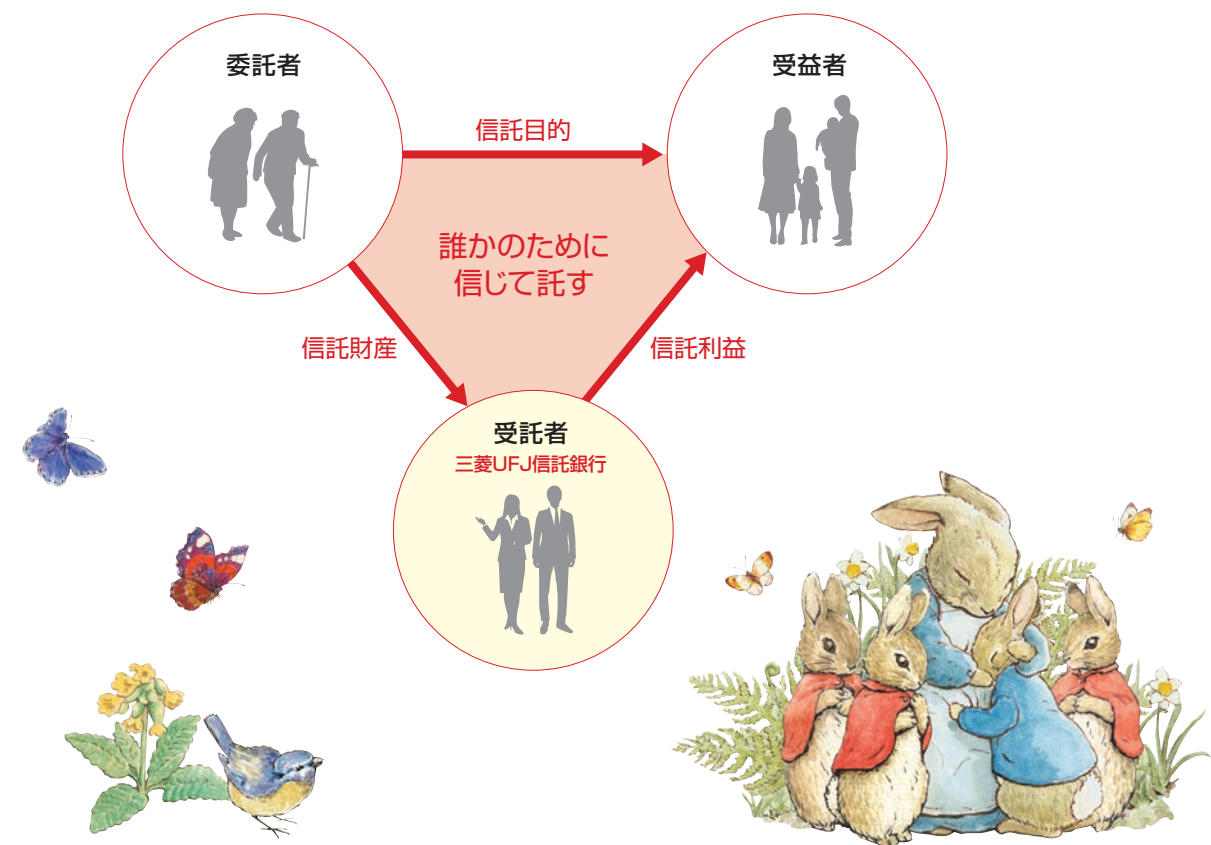


大切な人のために財産を守り、確実に引き継いでいきたい、
という想いを実現する「信託」

「信託」とは、お客さま（委託者）が、自分自身や大切な人（受益者）のために、信頼する人や専門家（受託者）に財産などを託す行為のことです。「信託」の仕組みは、およそ1000年前の中世イギリスで誕生しましたが、それに似た仕組みは紀元前にもみられます。今も昔も、その背景には、「託す人の想いを、時間を

超えて大切な人に引き継いでいきたい」という人々の普遍的な願いが流れているのです。私たち三菱UFJ信託銀行は、「信託」の担い手として、その想いを安心して託していただける存在でありたいと考えています。



Fiduciary Duty(フィデューシャリー・デューティ)
～託された信頼に誠実に応えていく責任～

英米では、相手方から信頼を託され、その相手方のために専門性の高いサービスを提供する人はフィデューシャリーと呼ばれています。信託の受託者のほか、医師、弁護士などもフィデューシャ

リーであるとされています。フィデューシャリーには、高い倫理観と専門性に基づいて、託された信頼に誠実に応えていく責任、すなわちフィデューシャリー・デューティが強く求められています。

三菱UFJ信託銀行のFiduciary Duty

私たち三菱UFJ信託銀行は、フィデューシャリーとして、さまざまな法的義務を果たすことはもとより、高い倫理観と専門性に基づいて行動することで、お客さまや社会からの期待と

信頼に応えていけるよう努力し続けています。そのために、役職員一人ひとりが以下に掲げる3つの要素を基本として日々行動しています。

1

「人」としての力・
人間性

高い規範意識と信頼される人間性を持ち合わせるとともに、たゆまぬ自己研鑽を行います



2

専門性・
プロフェッショナリズム

信託銀行員として求められる幅広い領域での見識を持ち、お客さまにとって最適・最善の解を提供する専門性を発揮します



3

お客さまの最適・最善の
ために行動する力

お客さまのことを自分のこととしてとらえ、お客さまにとって真に最適・最善なことは何かを考え、その実現に全力を尽くします



信託商品に託された想い

教育資金贈与信託「まごよろこぶ」に託された想い

当社の教育資金贈与信託「まごよろこぶ」では、お孫さまの将来を応援したいという祖父母さまの大切な想いを、ご資金とともにお孫さまにつないでいます。
以前に、お取引を受け付けた当社の社員が、通帳に一所懸命に書かれた、「〇〇ちゃんへ これを使って立派な人になってくださいね。おじいちゃんより」という震える直筆のメッセージにふれ、そこに込められた想いに涙が溢れると同時に、託される受託者としての責任の重みをひしひしと感じたというエピソードがありました。



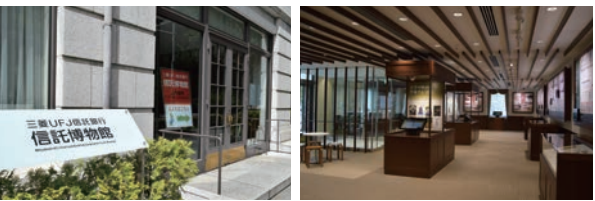
大切な想いを次世代につなぐため、当社では温かいメッセージや思い出の写真を通帳に残していただく、という独自のサービスを提供しています。

三菱UFJ信託銀行 信託博物館

大切な財産を守り、未来へ引き継ぐ—その歴史にふれてみませんか

「大切な人のために財産を守り、確実に引き継いでいきたい」という人々の願いから誕生した「信託」。
脈々と流れる想いを引き継ぐため、先人たちが幾多の困難や危機を乗り越え、いかにして現在の「信託」をかたちづけてきたか—三菱UFJ信託銀行信託博物館では、さまざまなエピソードに彩られた長い歴史をご紹介します。

📍 東京都千代田区丸の内1-4-6 日本工業倶楽部会館1階
▶ <http://www.tr.mufg.jp/ippan/about/hakubutsukan/>



【展示の一例】日本にもあった、信託類似の発想 弘法大師の「綜芸種智院」
平安時代(828年)、弘法大師空海は、一般庶民の子弟にも広く教育を施したいと考え、貴族藤原三守から土地・邸宅の寄付を受け、そこに「綜芸種智院」という学校を建設しました。託された財産で空海が教育活動を行い、庶民がこれを楽しんだと考えますと、空海は日本で最古のフィデューシャリーといえるでしょう。